

第2回江東区都市計画マスタープラン 2022 推進会議【会議録】

開催日時	令和4年7月27日(火)午前10時00分		
開催場所	オンライン開催(Zoom)		
出席者 (敬称略・順不同)	【委員】 <委員長> 志村 秀明 <委員> 村木 美貴、市古 太郎、川内 美彦、森本 章倫、柳井 重人 【区職員】 都市整備部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、地域整備課長、 沿線まちづくり担当課長		
【議題】		【所管】	
西大島地域のまちづくりについて		地域整備課	
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料3	浸水エリアにおける災害時の避難を考える上では、広域的な避難をどうするのか、またハードとソフトの連携の観点が必要である。	本地域は令和4年3月に改定した都市マスで浸水対応が必要なエリアとして位置づけられており、広域避難を含め、ハードとソフトの連携についてもしっかり検討する。
2	資料3	洪水・浸水対策として防災拠点や施設を整備するとともに、それらを日常的にも使い勝手の良いものにすることが大事である。	団地内には、公園や緑地等の広い空間が設けられているので、このスペースが日常時及び災害時に機能するよう検討する。
3	資料3	例えば、学校等の公共施設を避難施設として効果的に利用することなどを検討するには、区の各部署が横断的に取組む必要がある。	今後、庁内関係部署と協議する。
4	資料3	西大島地域においてどれだけの人が避難、対処できるのかをしっかりと定める必要がある。	
5	資料3	エリアの核となる公園やオープンスペースを民間事業者と連携しながら整備するとともに、整備したものを公に開いていくという観点が必要である。	民間事業者等と連携しながらオープンスペースの確保について検討していく。 大島四丁目団地内についても、オープンスペースの確保及び開放について、今後、UR都市機構と協議を進める。
6	資料3	学校の校庭など、公共施設が有するオープンスペースを確保し、地域に解放していくことが重要である。	西大島地域の各所において、オープンスペースの確保に取り組みたい。
7	資料3	河川を活かしてオープンスペースをネットワーク化していくことが重要である。	

8	資料3	UR大島4丁目団地のオープンスペースは地域の重要な資源であり、これからも継承していくとともに質を高めていく必要がある。	大島四丁目団地内のオープンスペースの確保とその開放について、UR都市機構と協議する。
9	資料3	これからは「眺める緑」から「使う緑」についても考えていくのが大事である。	ご意見を踏まえて対応していく。
10	資料3	今回の大島3・4丁目のまちづくりの議論や方向性を踏まえ、今後、総合区民センターの改築等についても、横断的なエリア連携の観点から、区としてのスタンスを固める必要がある。	総合区民センター、再開発、小学校の建替えなどを通して、西大島の地域の全体像について具体的に考えていく。
11	資料3	短期・中期・長期といったスパンで、いつ何が起きて最終的にどのような形になるかなど、事業スケジュールを関係者と共有し、戦略的な動きを時間軸上で検討する必要がある。	時間軸は、整備の費用や予算の関係で、ずれることは仕方ない部分もある。整備主体は異なるものの、区として事業エリア別のまちづくり方針を策定することで、それらが重なり合ったときに、一つの西大島地域核ができ上がるといったイメージを持っている。今後はそれぞれのスケジュール感の内容も含めて検討する。
12	資料3	大島3・4丁目でプロジェクト主体が異なるため、区が各事業の進行管理をしながらPDCAサイクルを進める必要がある。	ご意見を踏まえて対応していく。
13	資料3	防災性の確保について、着実に一歩ずつでも進んでいく姿とともに、「減災(逃げる)」という観点を区民と共有することが大事である。	防災性の向上については、区としても課題認識している。事業主体は異なるが、連携して防災機能の向上に努めるよう、要望・指導していく。
14	資料3	推進会議で議論するのは良いが、再度ここで計画を見直しとなると、再開発の事業化がさらに長期化する懸念がある。	現在区においても、事業エリア別まちづくり方針の策定へ向けた検討を進めている。まちづくり方針策定のうえ、事業計画案の確認等を行っていく。
15	資料3	協議の回数が増えて開発プロセスが長期化することにより、地域の中心的人が動けなくなる懸念がある。協議の期間や回数を定めるなど、タイムスケジュールを明確に示す必要がある。	今回いただいたご意見を踏まえて対応していく。
16	資料3	大島3丁目・4丁目は近接しているため、一体で考える必要性があるかもしれないが、事業のタイムスケジュールが違うものを全て一緒に考えることができるかは、十分に検討した方が良いと思う。	西大島地域に関しては、様々な開発動向があり、各事業の時間軸が異なるが、まち全体の将来像を合わせるべく検討を進め、順次、エリアごとに事業を進めていく。